

學會彙報

○昭和三十九年度漢文學總會

〔漢文教育研究會〕 六月二十七日(土) 於鄰立城北高校

一、研究 授業

二年漢文(東京書籍漢文一)

實施者 設樂 武志氏

三年漢文(秀英出版漢文新選)

實施者 大坂 泰氏

一、研究 會

第一部

(イ) 當番校挨拶

司會 志賀 委員
城北高校長 小山 清明氏
同校國語科 蘭頭平八郎氏

(ロ) 教授者説明

(ハ) 質疑應答

第二部

〔漢文訓讀法の問題點〕

〔研究發表會〕 六月二十八日(日) 於東京教育大學

司會 鎌田 委員
新宿高校 青木木菟哉氏

司會 今井、田中、中村、宮内委員

一、王充の古典解釋について—禮記— 大學院 大久保隆郎氏

一、丘逢甲の詩について 〃 許 常安氏

一、王充と司馬遷 〃 清水 榮氏

一、沈既濟と小説 新潟大學 内山 知也氏

一、藩學の解體と學校創設期における漢文の問題 信州大學 千原 勝美氏

一、「詩品」の文學意識

教育大學 鈴木 修次氏

〔總會〕

一、開會の辭

司會 鈴木 委員

一、報告並に議事

(1) 議長選出(上原好一氏)

(2) 各部報告

(イ) 庶務報告

緒形 委員

(ロ) 研究一報告

鎌田 委員

(ハ) 研究二報告

今井 委員

(3) 議事

(イ) 昭和三十八年度收支決算

志賀 委員

(ロ) 昭和三十九年度豫算

志賀 委員

(ハ) 會則改正案

緒形 委員

第六條・第七條・第八條の改正(後記の會則参照)

(4) 委員改選(新會則による)

一般會員より四名(小島・志賀・青木・田部并)當選
内野 委員長

一、閉會の辭

司會 志賀 委員

○講演會

昭和三十九年九月二十六日(土)午後二時 於東京教育大學

〔中國古代の河川祭と詩經〕

東大教授 赤塚 忠氏

○昭和三十九年度月例會 〔四、九、一月は第三土曜、その他第一土曜、午後一時半開會〕

○五月九日(土)例會

梅堯臣の詩と詩論

大學院 横山伊勢雄氏

○十月二十四日(土)例會

王充の天人感應論について

大學院 加治 信之氏

猿投神社藏史記古鈔本について

清水 榮氏

「女誠」の近代的意義

北海道學藝大學 杉森 久彌氏

○十一月七日(土)例會

魯迅の文學運動について

本學講師 丸山 昇氏

丘逢甲の詩について—特にその時事詩—

大學院 許 常安氏

○十二月十二日(土)例會

章草について

田中 有氏

○一月二十三日(土)例會

佐野文庫藏傳宋本李太白文集について

高崎工專 水澤 利忠氏

中國見聞談

大學院 高橋 均氏

○二月六日(土)例會

「論衡」に現われた世界觀

大學院 大久保隆郎氏

革命文學論戰と矛盾

平松 辰雄氏

(二) 外國語科目

鈴木助教

〃 (文學)

牛島助教

〃 (文法)

長谷川講師

〃 (作文)

〃

〃 (作文)

陳 講師

〃 (會話)

志村 講師

〃 (文法・作文)

〃

〃 (文法・作文)

藤堂 講師

〃 (讀本)

〃

〃 (讀本)

頼 講師

〃 (讀本)

伊藤 講師

〃 (讀本)

(三) 専門教育科目

内野 教授

〃 中國哲學概論並に特講

〃

〃 中國思想史演習 (詩經)

小林 教授

〃 中國思想史

〃

〃 中國思想史演習 (書經)

鎌田 教授

〃 中國思想史演習 (左傳)

〃

〃 中國思想史演習 (論語)

河野 教授

〃 中國思想史演習 (經國集)

牛島助教

〃 中國言語學特講

鈴木助教

〃 中國言語學演習

鎌田 教授

〃 (文學)

(一) 一般教育科目

内野 教授

漢文學講義

(思想)

鎌田 教授

〃

(文學)

○昭和四十年年度漢文學關係講義一覽

中國文學演習 (六朝詩)

(ジャンル論)

陳 講師 中國語學講讀

前野 講師 中國文學史 (元曲講讀)

丸山 講師 中國文學講義 (魯迅と瞿秋白)

水澤 講師 史記講讀

四 大學院科目

内野 教授 金文辭大系 (弘明集)

小林 教授 中國思想史 (列子講義)

鎌田 教授 中國思想史 (春秋學講義)

牛島助 教授 中國言語學 (六朝文法講義)

鈴木助 教授 中國文學 (唐詩の綜合的研究)

○紀要論文

緒形陽夫氏「戰國時代人の生命意識について」(三九・三・二五)

—主として戰國策に見られる「強死」の諸例よりする—

鈴木修次氏「魏晉六朝時代の文學認識」(四〇・三・二五)

○昭和三十九年度學部卒業論文題目

一、田間研究—その理論と實踐— 阿部 洋子

一、宋儒の正統論 上野 恵司

一、莊子研究 小野 勝

一、陶淵明研究 川 桃代

一、「晏子春秋」についての研究 佐々木 徹悟

—特にその政治思想を中心に—

一、話劇について 清水久美子

一、「故事新編」論 關 正美

—成立の事情に關する考察を中心に—

一、丁玲研究 難波 瑞恵

一、岑參とその作品について 原 浄

一、「腐蝕」について 平野かずみ

一、瞿 秋 白 前田 利昭

—中國左翼作家連盟における活動—

一、「文心雕龍」研究 向島 成美

一、現代中國兒童文學研究 山本セツ

次號 原稿募集

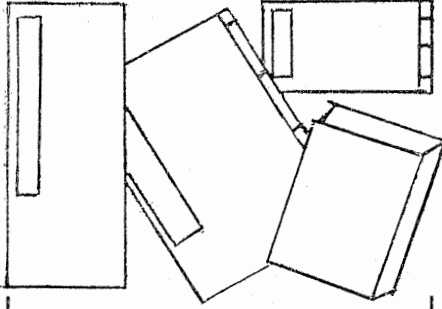
左記により次號第二十五號の原稿を募集いたします。
振って御應募下さい。

一、締切 昭和四十一年一月末日

一、枚數 四百字詰原稿用紙三十枚内外

一、採否 委員會に御一任下さい

和漢古書籍賣買



松雲堂書店

東京都千代田区神田神保町3~1
電話・東京 九段(03) 6 4 9 8

B6判・全2巻
各冊 480円
上巻 発売 中旬
下巻 5月下旬
——発売——

※掲載写真豊富

東京 神田 神保町二
振替東京 一九二六一

大 安

わが半生

愛新覚羅溥儀著
小野 忍・野原四郎 監修
新島淳良・丸山 昇 共訳

清朝最後の幼帝として過ごす宮廷内の矛盾にみちた生活、日本の帝国主義侵略の傀儡に転落した「満州国」皇帝時代、東京の極東軍事裁判、中国の戦犯収容所での自己改造をへてあたららしい人生の門出にたつ溥儀氏が、はじめて明らかにした波瀾にとむ世紀の回想録！

新 着 //

中国科学院編 武威漢簡 文物出版社 ¥ 6.300
考古研究所

武威より出土の竹木簡に記された儀禮9篇の釋文及び校記を内容とす。これは西漢晩期の簡冊制度を揭示するのみならず、鄭註本にあらざる儀禮本を紹介している。

東京神田神保町2の2

株式會社

極東書店

電話 (265) 7531(代表)
振替 100009

大阪・京都

○東京教育大學漢文學會々則

- 一、本會は東京教育大學漢文學會と稱し、事務所を東京教育大學漢文學研究室に置く。
- 二、本會は漢文學及び漢文教育の研究と普及とを圖るのが目的である。
- 三、本會の會員は左の通りである。

- 1 東京教育大學漢文學・東洋文學及び東京文理科大學、東京高等師範學校の漢文學關係教官（退官者を含む）
- 2 東京教育大學漢文學大學院中國古典學專攻學生及び卒業生、並に東京文理科大學漢文學・東京教育大學東洋文學專攻卒業生
- 3 その他入會を希望する者

四、本會の主な事業は左の通りである。

- 1 總會 年一回
- 2 會報及び會員名簿の發行
- 3 會報及び會員名簿の發行
- 4 その他必要な事項
- 五、本會の役員は左の通りである。

委員長 一名
委員 若干名

六、委員長は本會を代表し委員とともに運営に當る。

委員は本會の研究・庶務・會計を分擔する。

七、委員長は委員の互選による。

委員は東京教育大學學部學生中から四名、大學院學生から二名、專任教官から三名、一般會員から四名をそれぞれの互選によつて選出する。その任期は二年（學生委員は一年）とする。但し重任は差し支えない。

八、會員は會費年額六百圓、（但し學生は半額）を納める。

九、本會會則の變更は委員會の審議を経て總會出席者の過半数の承認を得なければならない。

後記

○昨年に引き続き、本年も會報を發行することができましたのは、會員諸氏の各方面よりする御協力の賜物である。今後益々學會發展のため御協力をお願いいたします。

○本年も幸にして、東京都内の共立社で印刷することができ、萬事都合でありました。殊に正字が自由に使えてうれしい。發行期日も厳守してくれました。ここに共立社に對しまして深甚の謝意を表します。

（今井・大久保）

漢文學會々報第廿四號

昭和四十年六月二十日 印刷
昭和四十年六月廿五日 發行
（非賣品）

東京教育大學漢文學會

編輯者

田部 井文雄
今井 宇三郎
大久 保隆郎

印刷所

東京都千代田區神田神保町三ノ一〇
株式會社 共立社印刷所
電 〇二一〇二八

發行所

東京都文京區大塚窪町二四
東京教育大學漢文學會
振替東京四七六〇〇番